

五色百人一首富山県大会 公式ルール

＜試合要項＞

1. 予選は、4人一組を原則とするが、欠員が出た場合、3人一組とすることもある。また、当日の急な欠員により、グループが変更されることもある。
2. 予選グループの組み分けは事務局が決定し、「青1」「緑2」など、グループ名をあらかじめ参加者に知らせる。
3. 予選グループごとに1対1の総当たり戦を行う。
4. 各グループ上位2名が決勝トーナメントに進出する。
5. 勝敗が同率の場合は、取った枚数の合計により上位2名を決定する。それも同じだった場合は、当該者同士の対戦結果により決定する。
6. 決勝戦の組み分けは、進出者本人のくじ引きで決定する。
7. 全色の予選が終了後に、決勝トーナメント戦を行う。

＜試合進行＞

1. 20枚の札は審判がシャッフルし、10枚ずつ2つに分ける。
2. 自分の札10枚を、横5列、縦2段に並べる。自分の札は自分の方向に向け、お互いに札の頭を近づける。横は任意の間隔をとる。
3. 札の位置を覚えるために1分間ほどの時間が与えられる。このとき自札相手札を裏返して上の句を見ることができる。ただし、札の移動はできない。
4. 読み手が「始めます。あいさつ」と言ったらお互いに「お願いします」とあいさつをし、握手をする。
5. 序歌を入れる。序歌は次のものにする。
「ご用意よければ 空札一枚 東海の 小島の磯の 白砂に 我泣き濡れて 蟹と戯る」
6. 試合途中、空札は読まない。
7. 読み手は、上の句と下の句を1回ずつ読む。
8. 取った札は裏返し（上の句が見えるよう）にして自分の手元におく。
(審判側に置く。)
9. 次の札を読みはじめたら、それ以前の札を取ることはできない。

10. 手をかざしながら札を探してはいけない。自分の手のひらを体のどこか（普通はひざかもも）につけておく。

11. 試合中には、取り札の裏を見ることはできない。

12. 試合中に、札の移動をすることはできない。札が少なくなりスペースができて移動しない。

13. 両者の手が同時に札に触れたと審判が判断したときは、じゃんけんで決める。手が上下に重なった場合は、下に手がある方が札を取る。

14. 一試合につき、17枚の札を読む。

<勝敗>

1. 20枚の札は審判がシャッフルし、10枚ずつ2つに分ける。

2. 17枚の札を読み終えた時点で、取った枚数を対戦者自身が数え、審判は残った枚数と照らし合わせて数を確認する。

3. 勝負は、取った枚数で決まる。

4. 同数の場合、「勝敗を決める1枚」として18枚目を読み上げる。この札を取った方が勝ち、または、この札のときにお手つきをした方の負けとする。

5. 18枚目の「勝敗を決める1枚」は、取って自分の持ち札に加えて数えることはしない。

6. 試合が終了したら、審判の合図で「ありがとうございました」といって握手をする。

<お手つき>

1. 読まれていない札に触れた場合は、お手つきとなる。

2. 自分の前の札でも相手の前の札でも、間違えて触れた場合は、お手つきとする。

3. 1枚読む間に2枚以上の札に触れることはできない。

4. お手つきした場合には、両者の間に「場」をつくり、自分がそれまでに取った札の中から1枚を裏返しにして「場」に出す。

5. お手つきするたびに、自分の取った札の中から1枚を「場」に出していく。

6. 持ち札がないときにお手つきをした場合は1回休みとなり次の札を取ることができない。

7. 「場」の札は、次の札を取った人が1枚だけもらえる。

8. 「場」に2枚札があった場合には、その次の札を取った人も1枚もらえることになる。

9. 試合終了時に「場」に札が置かれていることもある。